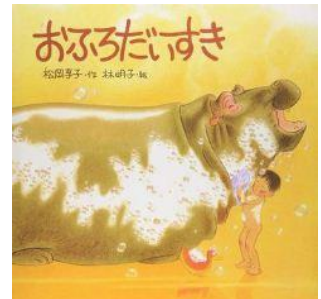


今月の1冊から 2016年1月～3月

1月（読書週間展示より）『おふろだいすき』

松岡 享子/作 林 明子/絵 福音館書店

男（おとこ）の子（こ）のまこちゃんはおふろが大好（だいす）きです。おふろへ入（はい）るときは、いつもあひるのプッカをつれていきます。まこちゃんがお湯（ゆ）からあがって体（からだ）を洗（あら）っていると、なんとおふろの底（そこ）に大（おお）きな亀（かめ）がいて、ペンギン、オットセイ、かば、くじらと次々（つぎつぎ）に動物（どうぶつ）がでてきました。きれいずきなかばの体（からだ）を洗（あら）ってあげたらみなでのお湯（ゆ）に入（はい）ります。冬（ふゆ）の寒（さむ）い季節（きせつ）はこの絵本（えほん）で一緒（いっしょ）にあたたまりましょう。



2月（児童冬の特別展示より）『杉原千畝と命のビザ』

ケン モチツキ//作 ドム リー//絵 中家 多恵子//訳 汐文社



1940年、外交官の杉原千畝（すぎはら ちうね）はリトアニアという国に家族と住んでいました。

ある日、ポーランドに住む大勢のユダヤ人たちが、日本の通過ビザ（ほかの国に行くために日本を通ることをみとめる許可証）を発給してほしいと千畝の元へやってきます。彼らはナチス・ドイツから逃れようと必死でした。

助けてあげたいけれど、日本政府の許可がなければ、勝手にビザは発給できません。許可を得るため千畝はくり返し電報を打ちました。しかし、3回目の返事も「ノー」（不許可）だった時、とうとう無断でビザを発給することを決心したのです。

当時、千畝の行いを知る日本人はほとんどいませんでした。しかし、時を経て千畝のおこないは「命のビザ」と呼ばれ広く知られるようになります。真実を語った絵本、多くの人に知ってもらいたいです。

3月（テーマの展示『北陸地方ってどんなところ』より）『東京駅 たんけん絵本』

濱 美由紀//作画 小学館

2015年3月北陸新幹線（ほくりくしんかんせん）が開通（かいつう）しました。北陸地方へ新幹線に乗（の）って行ってみたいですねその北陸新幹線が出発（しゅっぱつ）する東京駅（とうきょうえき）はとても大きな駅（えき）です。たくさんの列車（れっしゃ）がやってきたり、たくさんの人が列車に乗ったりおりたりします。そんな東京駅をたんけんしてみよう。さがしえや大きくひろげてみるページもあってたのしい本です。

